

使徒の務めはキリストの天の務めと協力して
神の羊の群れとしての神の召会を牧養し
キリストのからだを建造し、新しい復興を持つ

聖書：ヨハネ 10:11, 16, 21:15-17. I ペテロ 2:25, 5:4.

ヘブル 13:20, 啓 1:13, 2:1, 7

- I. 詩篇第 22 篇から第 24 篇はキリストを啓示する一組の詩であり、彼の十字架から、彼の牧養を通して、来たるべき時代における彼の王職まで述べています：
- A. 詩篇第 23 篇は、復活と昇天における牧者としてのキリストに関してであり、第 22 篇のキリストの贖いの死と彼の召会を生み出す復活と、第 24 篇のキリストが王として戻って来て、彼のからだとしての召会を通して全地を再び得ることの間の架け橋です。
 - B. キリストは彼の天の務めにおいて人々を牧養しており、わたしたちは彼と協力して人々を牧養する必要があります。もしわたしたちがこの交わりを受け入れるなら、地上に大きな復興があるようになり、主の再臨をもたらします。
- II. ヨハネ第 21 章は、使徒の務めがキリストの天の務めと協力することを啓示しています。ヨハネ第 21 章は、ヨハネによる福音書の完成と総括です：
- A. ヨハネによる福音書には二十一の章がありますが、実際は第 20 章で終わっています。
 - B. 本書全体はキリストの地上の務めを取り扱っており、彼が神の言として肉体と成って、肉体にある人と成ることで始まり (1:14)、彼が最後のアダムとして復活して、命を与える霊と成ることで終わっています (20:22)。ですから、第 21 章は補記であるはずでず。
 - C. このように言うことは正しいのですが、さらに内在的に言うと、ヨハネ第 21 章はヨハネによる福音書の完成と総括です。ヨハネ第 21 章は、ヨハネによる福音書全体を総括して、キリストの天の務めと使徒たちの務めが地上で共に協力して、神のエコノミーを完成することを見せています。
- III. ヨハネ第 10 章 10 節から 11 節と 16 節で、主が弟子たちに明らかにしたことは、彼が良い牧者であって、彼が来たのは羊が豊かに命を持つためであるということ、また彼には他の羊 (異邦人) もいて、彼はこれらの他の羊を導いて彼ら (ユダヤ人信者たち) と結合して一つの群れ (一つの召会) とならせ、ひとりの牧者の下に帰させなければならないということです：
- A. 主の牧養することは、第一に彼の地上の務めにおいてでした——マタイ 9:36. 参照、10:1-6。
 - B. 主の牧養することは、第二に彼の天の務めにおいてであり (I ペテロ 5:4)、神

の召会を顧み、彼のからだという結果になります。

IV. 主はペテロに、彼の小羊を養い、彼の羊を牧養することを託しました：

- A. 主は復活の後、昇天の前に、彼の弟子たちと共にとどまっていた時、彼が何回か現れたうちの一回において、彼が天にいてここにはいない間、彼の小羊を養い、彼の羊を牧養することをペテロに託しました——ヨハネ 21:15-17。
- B. これは、使徒の務めとキリストの天の務めを合併して、神の羊の群れを顧みることです。神の羊の群れは召会であり、それはキリストのからだという結果になります。
- C. 後ほど、使徒行伝の中で、ペテロは言いました、「わたしたちは、祈りと言の務めを堅く持ち続けることにしましょう」（6:4）。これは、キリストの天の務めと協力することです。この務めはとりなしの務めであり（ヘブル 7:25）、また神を彼の人々の中へと供給する務めです（8:2）。
- D. ペテロは主のこの委託にとっても印象づけられたので、彼の第一の手紙で信者たちに、彼らは羊のようにさまよっていたが、今は、彼らの魂の牧者また監督者に立ち返ったと告げています——I ペテロ 2:25：
 - 1. キリストはわたしたちに内住して、わたしたちの命またすべてとなっていますが、彼はまたわたしたちの内なる存在の状態と状況を監督し、観察しています。
 - 2. 彼がわたしたちを牧養するのは、わたしたちの内なる存在の益を顧みることにより、またわたしたちの魂（わたしたちの実際のパーソン）の状態を監督することによります——参照、ヘブル 13:17。
- E. ペテロは長老たちに、彼らの間の神の羊の群れを牧養するよう勧めています。それによって、牧者の長が現れる時、彼ら、忠信な長老たちは、しばむことのない栄光の冠を受けます——I ペテロ 5:1-4。
- F. ペテロの言葉が示しているのは、キリストの天の務めはおもに神の召会を牧養することであり、その召会は彼の羊の群れであり、彼のからだという結果になるということです。

V. 使徒パウロの以下の言葉も、使徒の務めがキリストの天の務めと合併して、神の羊の群れを顧みることを見せています：

- A. 使徒第 20 章 28 節で、パウロはエペソの長老たちに告げました、「あなたがた自身と群れ全体に気をつけなさい。聖霊は彼らの間に、あなたがたを監督として立てられ、神がご自身の血を通して獲得された [あるいは、買い取られた] 神の召会を牧養させるのです」。
- B. パウロは言いました、「わたしが去った後、凶暴なおおかみどもがあなたがたの間に入って来て、羊の群れを惜しまないことを、わたしは知っています」（29 節）。使徒は自分の命を顧みず（24 節）、召会の前途を非常に心配していまし

た。召会は、彼の宝であり、また神の宝です。

C. パウロはヘブル第 13 章 20 節で言います、「神 [は] ……永遠の契約の血による羊の大牧者であるわたしたちの主イエスを死人の中から引き上げた」：

1. この永遠の契約は新しい遺言の契約であり、それは羊の群れ、すなわち召会を得るためであって、その結果はキリストのからだであり、新エルサレムを究極的に完成します。神の永遠の契約は、牧養することによって新エルサレムを究極的に完成することです。
2. 神がわたしたちの主を死人の中から復活させたのは、彼を大牧者とならせて、神の永遠の契約にしたがって新エルサレムを究極的に完成させるためです。

VI. キリストの天の務めと合併された使徒の務めの主要な目的また目標は、キリストのからだを建造することであり、それは新エルサレムを究極的に完成し、神の永遠のエコノミーを成し遂げます——参照、エペソ 3:2, 8-9. I ペテロ 5:10。

VII. 神の永遠のエコノミーの主要な目的と究極的完成のために神の羊の群れを牧養するこの事柄は、雅歌でも言及されています：

- A. 「わたしの魂の愛する方、わたしに教えてください。あなたはどこであなたの羊の群れを [満足のために] 飼っているのですか？ 昼にはどこで [安息のために] 伏させるのですか？」——雅 1:7 前半。
- B. 「出て行って羊の群れの足跡に従い、そして羊飼いの天幕のそばで、あなたの子やぎを飼いなさい」——8 節後半。
- C. 「わが愛する方はわたしのもの、わたしは彼のもの、彼はゆり [単一な心で神に信頼する生活をする、キリストを追い求める者] の間で群れを牧養しています」——2:16。
- D. 「わたしはわが愛する方のもの、わが愛する方はわたしのもの、彼はゆりの間で群れを牧養しています」——6:3。

VIII. 信者たちを牧養することは、彼らが命において成長するために極めて重要です。わたしたちは牧養の道を取って、福音を宣べ伝え、召会を復興しなければなりません：

- A. わたしたちはこのように祈るべきです、「主よ、わたしは復興されたいです。今日からわたしは牧養する者になりたいです。わたしは行って人を養い、人を牧養し、人を群れとならせたいです」。
- B. ヨハネ第 10 章と第 21 章で、主は牧養することに関して三つの言葉を用いました。それは、「養いなさい」、「牧養しなさい」、「群れ(とする)」です (10:16. 21:15-16)。わたしたちは「群れ」という言葉を動詞として用いることもできます。
- C. すべての召会は、どのようにして人を共に群れとならせて、彼らが共にブレンディングされることができるようにするかを学ばなければなりません。長老と同

労者たちは、率先してこの事を実行すべきです。

IX. 金の燭台を有機的に維持することは、キリストの天の務めであって、彼の人性において諸召会をはぐくみ、また彼の神性において諸召会を養って、彼の有機的な牧養を通して勝利者を生み出すことです——啓 1:13. 2:7. ヨハネ 10:11, 14. I ペテロ 2:25. 5:4. ヘブル 13:20 :

A. 人の子は彼の人性の中にあり、金の帯は彼の神性を表徴し、胸は愛のしるしです :

1. キリストは腰に帯を締め、神聖な働きのために強められて (出 28:4. ダニエル 10:5) 、諸召会を生み出しました。しかし今、彼は胸に帯を締めており、彼の愛によって彼が生み出した諸召会を顧みています (啓 1:13) 。
2. 金の帯は、キリストの神聖な活力としてのキリストの神性を表徴します。胸は、この金の活力が彼の愛によって、また彼の愛をもって行使され、動機づけられて諸召会を養うことを表徴します。

B. キリストは人の子として、彼の人性において諸召会を顧みて、諸召会をはぐくんでいます——啓 1:13 前半 :

1. 彼は燭台のともし火を整えて、それを適切にし、わたしたちをはぐくんで、わたしたちを幸いにし、喜ばせ、心地良くさせています——出 30:7. 参照、詩. 42:5, 11 :
 - a. 主の臨在は優しくて温かい雰囲気をもたらして、わたしたちの存在をはぐくみ、わたしたちに安息、慰め、いやし、清め、励ましを与えます。
 - b. わたしたちは召会において主の臨在のはぐくむ雰囲気を享受して、養う命の供給を受けることができます——エペソ 5:29. 参照、I テモテ 4:6. エペソ 4:11。
2. 彼は燭台の灯心を切り取り、わたしたちが輝くのを妨げるすべての消極的な事柄を切り落とします——出 25:38 :
 - a. 灯心の焦げた部分、すなわち灯花は、神の定められた御旨にしたがっておらず、切り落とされる必要のある事柄を表徴します。それはわたしたちの肉、天然の人、自己、旧創造などです。
 - b. 彼は諸召会の間にあるすべての違い (過ち、短所、失敗、欠点) を切り取ります。それによって諸召会は、本質、外観、表現において同じになります——参照、I コリント 1:10. II コリント 12:18. ピリピ 2:2。

C. キリストは彼の神性において、彼の胸にある金の帯によって表徴される神聖な愛をもって諸召会を顧み、諸召会を養っています——啓 1:13 後半 :

1. 彼は三つの時期の満ち満ちた務めにおいて、すべてを含むキリストとしてのご自身をもってわたしたちを養います。それによってわたしたちは神聖な命において成長し円熟して、彼の勝利者となって、彼の永遠のエコノミーを完

成します。

2. 彼は歩くキリストとして各召会の状態を知ります。また彼は語る霊として燭台を整え、新鮮な油、すなわち、その霊の供給をもって燭台を満たします——
2:1, 7. 参照、出 27:20-21. ゼカリヤ 4:6, 11-14。
 3. わたしたちは彼の行動にあずかり、彼の顧みを楽しむために、諸召会の中に
いなければなりません。
- X. キリストのすばらしい牧養を通して、わたしたちは今日も、また永遠にわたって
彼をわたしたちの祝福として享受します——イザヤ 49:10. 啓 7:9-17. ヨハネ
6:35. 4:13-14. 詩 36:7-9. 91:1. イザヤ 12:1-6. 啓 22:1。

©2026 *Living Stream Ministry*